

## 2 共同研究

### 大正期の小作争議と米騒動における弁護士役割－布施辰治関係文書の検討を中心に－

研究代表者 村 上 一 博

2011年度に予定していた研究実施計画は、おおむね順調に消化することができたが、ただ一件、宮城県石巻市文化センター所蔵の布施辰治文書（小作争議および米騒動関係資料）のデジカメ撮影については、実施しえなかった。2011年3月の東日本大震災のため文化センターが被災し、布施辰治文書のほとんどは幸いに損傷を免れたものの、その後、東北歴史博物館に移管され仮保管中であり、閲覧利用することができない状態が続いているためである（今後の見通しも不透明であり、2012年度も閲覧できない可能性が高い）。

その他の資料収集計画については、実施計画に従って実施した。

まず、朝鮮大学校に所蔵されている布施辰治文書中の米騒動関係裁判資料については、すでに明治大学図書館の事業として相当部分のデジタル撮影がなされているため、この既撮影分と、井上清・渡部徹編『米騒動の研究』（有斐閣、1959-62年）に収録されている、いわゆる細川嘉六資料（現在、法政大学大原社会問題研究所所蔵）との照合作業を行った。多くの裁判資料が重複していることが判明したが、この照合作業の結果に基づいて、未撮影分の朝鮮大学校所蔵資料について、デジカメ撮影を実施する予定である。

国内資料調査としては、新潟・北陸（富山・石川・福井）・長野の米騒動関係史跡の巡見および、各地の公共図書館・文書館などに所蔵されている小作争議および米騒動関係資料について閲覧・収集を行った。各県市史などでも小作争議や米騒動に関しては詳しい記述があり、当該地方の裁判関係資料についても、石巻市文化センター所蔵の布施辰治文書中に散見される（目録から確認できる）が、今後は、これらの関係資料を比較対照し、相互補完的に整序する作業を行う必要がある（布施の弁護記録の一部は、山泉進・村上一博編『布施辰治研究』日本経済評論社、2010年、に収録済みである）。

また、国外資料調査として、韓国全羅南道羅州郊外旧宮三面地区の巡見調査を行った。布施は、1923年から27年にかけて、3度訪朝しているが、第2回目の訪朝の目的は、全羅南道羅州郊外旧宮三面事件に関わる土地調査であり、東洋拓殖株式会社に売却された宮三面の耕地を農民が取り戻す訴訟活動（所有権確認訴訟）を弁護するためであった。今回の巡見では、高麗大学（ソウル市）に留学中の明治大学法学研究科および政治経済学研究科の院生2名の助力をえて、布施『朝鮮旅行記』（朝鮮大学校図書館所蔵）の記載に沿いながら、羅州に今も残る東洋拓殖株式会社の倉庫跡や住居跡、「抗日農民運動記念碑」（1991年6月建立）などを訪問することができた。布施の訪朝については、『東亜日報』が随時報じているため、同紙記事の検索作業も進めている。